

彦根歌謡祭 2021年7月3日(土)

会場 ひこね市文化プラザ エコーホール

リハーサル 7月2日(金) PM6時～9時30分

本番 7月3日(土) AM10時開演～PM4時終演

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年6月13日予定の彦根歌謡祭延期、さらに、10月11日の彦根歌謡祭も中止。

今年に入り、彦根歌謡祭を開催して欲しいとの要望があり、熟慮の末、県の感染拡大防止の指導に従って、彦根歌謡祭を開催することを決定。

当日は、出演者、見学者の全員を受け付けで検温、さらに消毒液で手指消毒。又、マスクを忘れた人、汚れている人にマスクを提供。

客席では、前後、左右1席以上、必ず空ける。大声は出さな

にする。マイクは、2本用意して、舞台役員が使用前後に除菌シートで除菌して、出演者に渡す。更に、舞台袖の待機も密にならない様、2人までとして、感染拡大防止を徹底した。最後まで緊張感を持って進行、運営をして事故も無く、無事に終える事が出来ました。

これも、出演者、見学者の皆様方のご協力のお陰でもあり・さらに、未来へつなぐしが文化活動応援事業のスタッフの皆様方の応援のお陰であると、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

彦根歌謡祭



坂本純一 作詞：作曲：編曲：演奏：制作

近江線を歌う、遠藤喜美雄さん。

近江線

作詞

一力屋重兵衛

1

君の住む町 訪ねて来たよ
一人乗り継ぐ 米原駅
ひとりひっそり 暮らすとか
風の噂に 近江路行けば
車窓から見える 琵琶湖が啼く
五箇荘辺りか ああ近江線

2

日暮れが迫る 八幡堀の
小さなお店の 暖簾を守る
川面に映る 面影に
募る思いが 灯を濡らす
寒さに耐えて 幾冬か
汽笛も鳴いて ああ近江線

3

少し痩せたか ふるえる背中
逢いたかったと 差し出す両手
出直すための 約束に
君の涙が 時雨にかわる
苦労重ねた ほずれ髪
旅路の終わりか ああ近江線

彦根歌謡祭



坂本純一 作詞：作曲：編曲：演奏：制作

余呉の初雪を歌う、向島節子さん。

余呉の初雪

作詞 一力屋重兵衛

改札口抜けて 誰もいないホーム
二人の肩に 粉雪が舞う
私の冷たい 指先 握り締めて
身じろぎもせずに じっと見てる
信じ過ぎると 心がとても痛む
あなた一人を 愛しつづける
二人暮した町を 白く染めて
余呉の駅に 初雪が降る

間もなく電車が 入るとアナウンス
見送る私の 悲しみわかる…
心の糸をつなぎ 一人で生きてゆく
短い暮しでも 幸せでした
雪の簾が あなたの電車消して
北の日本海へ 帰って行くのね
二人過ごした日々が 胸に迫る
余呉の湖に 初雪が降る

あなたサヨナラ 一人残して行くのね
私の涙が この雪降らす
二人暮した部屋が 滲んで見える
余呉の里に 初雪が降る

彦根歌謡祭



ゲスト出演 紅舟あゆみさん

オリジナル曲 絹糸の里：大阪チャチャチャを歌唱。

場内より盛大な拍手を受ける。





池田輝郎の一世一代を遠藤喜美雄さんが歌い、
新舞踊 都流の中村正子さんが華麗に舞う。
客席からは、お二人のコラボに盛大な拍手がおくられ
た。



最後に、主催者を代表して挨拶。(代表 坂本純一)

コロナ感染の閉塞感の中、彦根歌謡祭に参加し、又
感染拡大防止にもご協力いただき、心より感謝申し上げ
ます。皆様方のご健康・ご長寿・栄光・勝利をお祈
り申し上げます。 と要旨、....